

三浦太智

目 的

太平洋海域におけるスルメイカの有効利用、および漁業の効率化と経営安定に寄与するため、スルメイカの漁況予報を行う。本調査では、漁況予報に必要なスルメイカの分布・回遊、成長・成熟に関するデータ、および海洋環境に関するデータを収集、整理する。

材料と方法

試験船開運丸により、2021年5月から6月（第一次）および8月から9月（第二次）に、青森県東方の太平洋海域において、海洋観測と釣獲調査を実施した。本調査は、北海道沖太平洋沿岸のスルメイカの漁況予報作成を目的に、水産研究・教育機構および東北・北海道の関係機関と共同で実施した。開運丸が実施した調査の概要は以下のとおり。

1. 第一次調査

(1) 期 間：2021年5月27日から6月7日

(2) 調査項目：太平洋沖合海域35地点において、CTD（seabird社、SBE9plus）により表層から最深1,000 mまでの水温および塩分を測定し、平年値と比較した。このうち14地点において、2連式自動イカ釣り機3台による釣獲調査を実施した。漁獲物は種別に尾数を計数し、種別に最大100尾の外殻長を測定した。

2. 第二次調査

(1) 期 間：2021年8月28日から8月30日

(2) 調査項目：太平洋沖合海域32地点について、CTD（seabird社、SBE9plus）により表層から最深1,000 mまでの水温および塩分を測定し、平年値と比較した。このうち8地点において、2連式自動イカ釣り機3台による釣獲調査を実施した。漁獲物は種別に尾数を計数し、種別に最大100尾の外殻長を測定した。

結 果

1. 第一次調査

津軽暖流の各層最高水温は、0m層、50m層で「はなはだ高め」、100m層では「平年並み」、水塊深度は「平年並み」、津軽暖流の張り出しは「はなはだ東偏」であった。

14地点全てでいか類の採捕はなかった。

2. 第二次調査

津軽暖流の各層水温は0m層で「平年並み」、50m層、100m層で「やや高め」、水塊深度は「やや浅め」、津軽暖流の東方への張り出しは「かなり東偏」であった。

8地点中1地点でスルメイカ56尾が採捕され、外殻背長は160 mmから210mmの範囲であった。